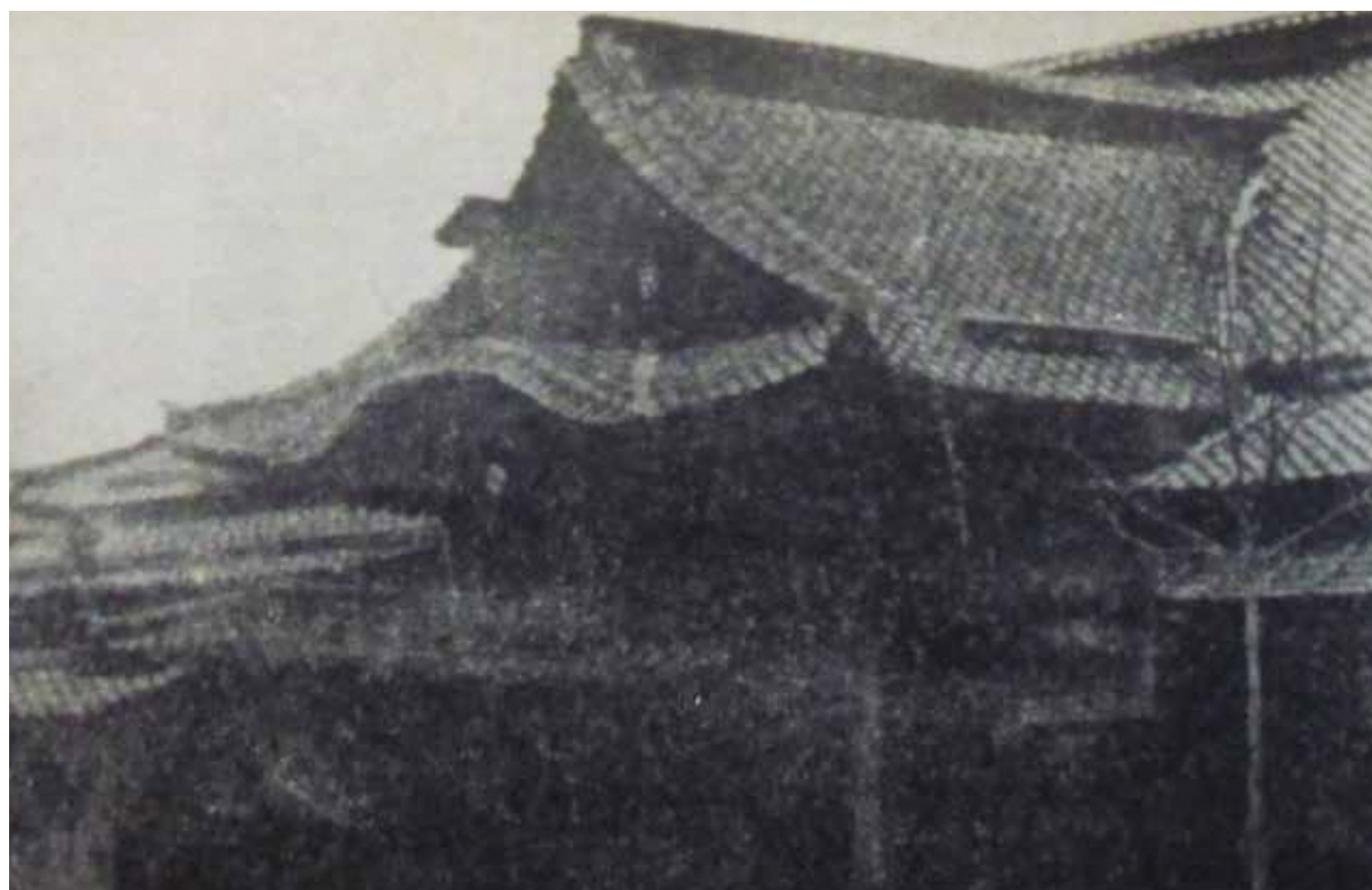


富山県庁舎の変遷

初代「旧本丸御殿」庁舎

明治16年（1883）5月9日、石川県から富山県が独立し、現在の形の富山県が誕生しました。同年7月1日、富山県庁は旧富山城址の富山公園地にあった旧本丸御殿に仮設されました。

同18年1月、仮設の庁舎であった旧本丸御殿は、正式に県庁舎となりました。合わせて富山公園地は、富山県庁地と改称されました。



最初の県庁舎であった旧本丸御殿
（『富山県政史 第一巻』昭和11年 より）

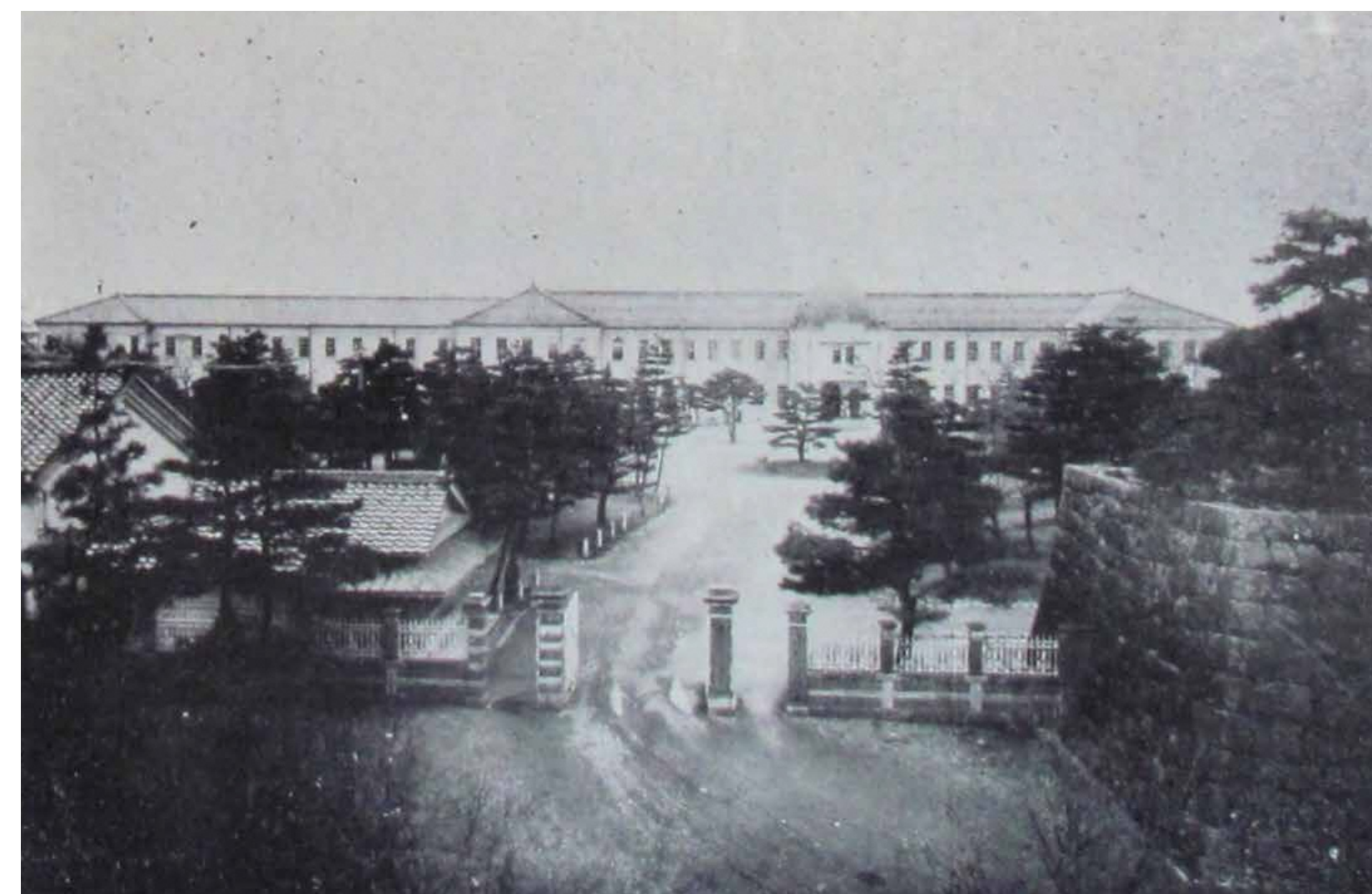
二代目「富山市山王町」庁舎

明治32年（1899）4月2日、県庁舎は富山市山王町五番地（日枝神社跡）に移転されます。これは、旧本丸御殿庁舎が老朽化し手狭になったこと、さらに翌年開かれる予定の第七回関西府県連合共進会の会場に富山城址が当てられたからです。

ところが、同年8月12日に富山市中野新町より出火し、県庁舎及び県会議事堂が焼失してしまいます。そのため、直ちに仮庁舎が富山市総曲輪の県師範学校内に開設され、8月25日には富山市梅沢町の大法寺境内に移転しました。

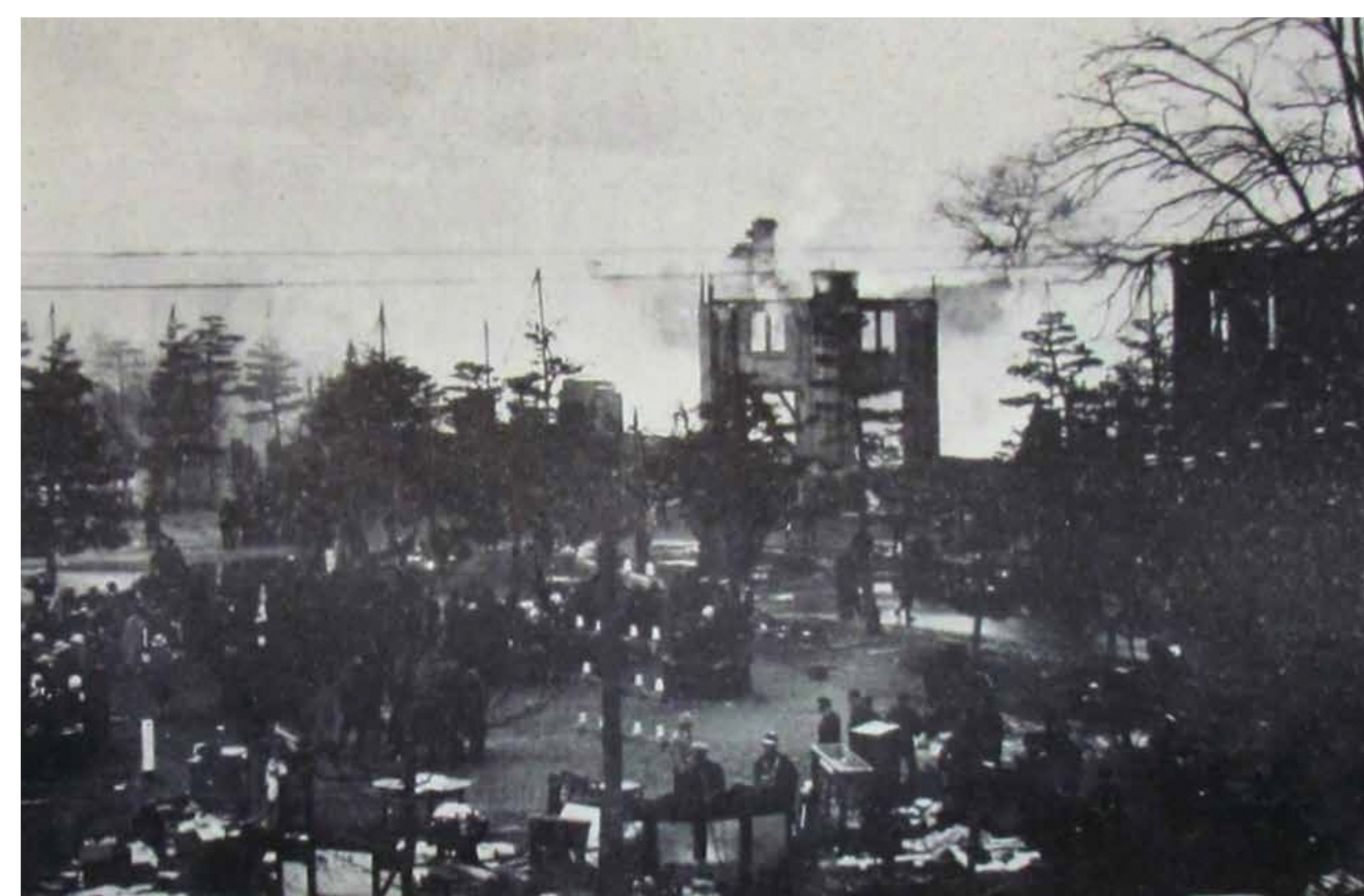
三代目「富山市総曲輪」庁舎

明治33年（1900）7月5日、県庁舎は再び富山市総曲輪旧城内に新築されました。



三代目の富山県庁舎
（『富山自治 3月号』昭和5年 より
小又家文書 富山県公文書館蔵）

しかし、昭和5年（1930）3月6日県庁本館2階中央部より出火し、県庁舎の大部分が焼失してしまいます。この火事では、富山第35連隊も出動し、書類の運搬や警備などにあたりました。



県庁焼失の様子
（『富山自治 3月号』昭和5年 より
小又家文書 富山県公文書館蔵）

県庁の再建について高岡移転論もでしたが、同年3月18日の臨時県参事会で仮庁舎を富山市内に建設する予算案が可決されると移転論は立ち消えになりました。また、当時は農業恐慌下であり、県庁の新築移転は困難を極めました。

四代目「現本館」庁舎

現在の県庁舎は、昭和10年（1935）8月17日神通川廃川地において竣工しました。総工費は117万円余で、昭和8年度から3ヶ年の予算で建設されました。

鉄筋コンクリート造りの近代建築で、大部分は4階建てですが、一部5階建てとなっています。設計者は、国会議事堂や山口県庁などの設計にも携わった大蔵省営繕管財局の大熊喜邦でした。



竣工時の現本館庁舎

（「富山縣廳舎竣工記念ポストカード」より
高道家文書 富山県公文書館蔵）

この庁舎にも焼失の危機がありました。

それは、昭和20年（1945）年8月2日未明のアメリカ軍B29爆撃機によって甚大な被害をもたらされた富山大空襲です。富山市内が狙われたこの空襲により、県庁舎も一部被災しましたが、焼失は免れました。

空襲のあった同日より県庁に、岡本茂知事以下県の全課長や石坂豊一富山市長などが集まって戦災対応策を協議し、応急救護所や戦災収容所の開設、食糧支援などの応急処置を決定し、業務にあたりました。

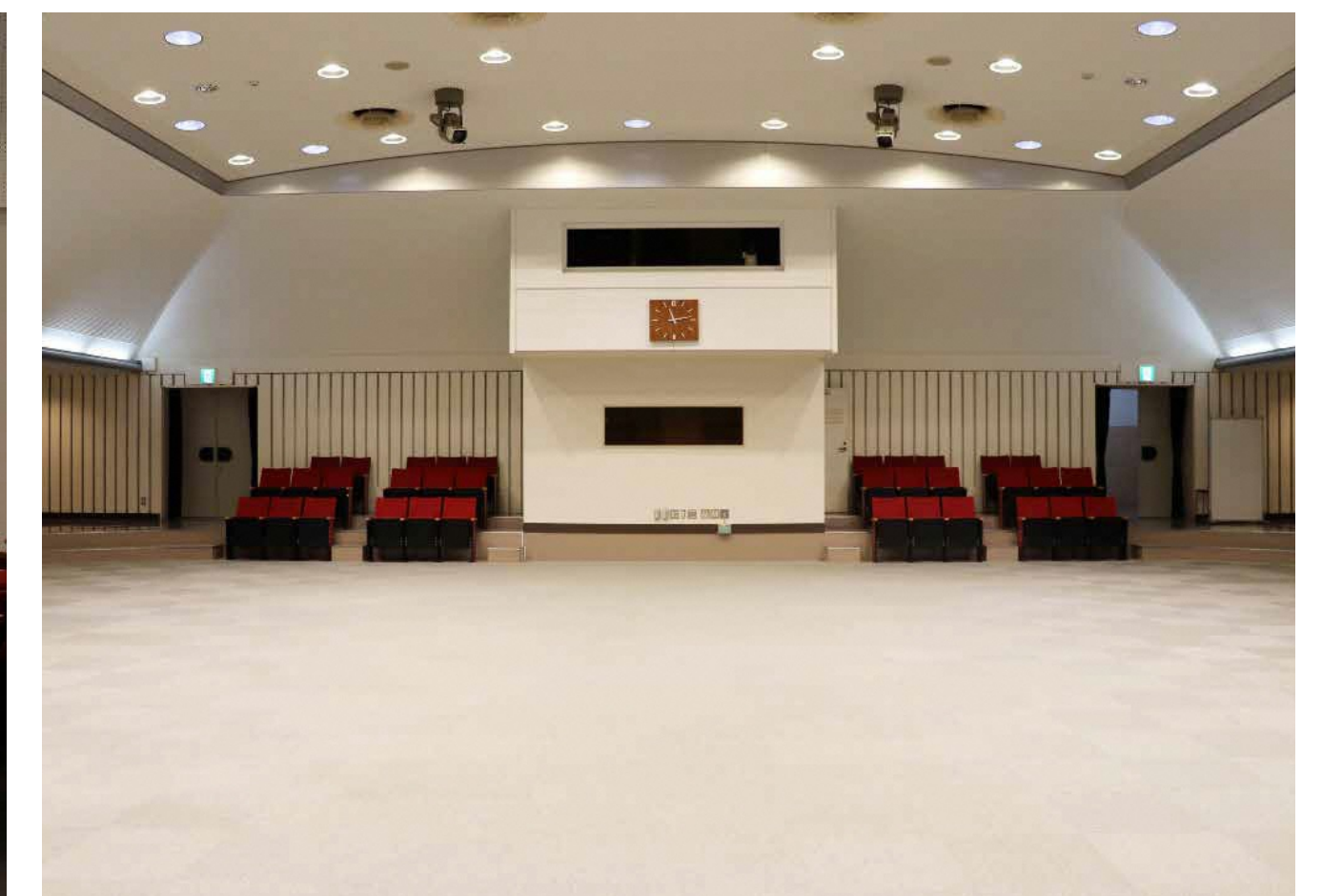
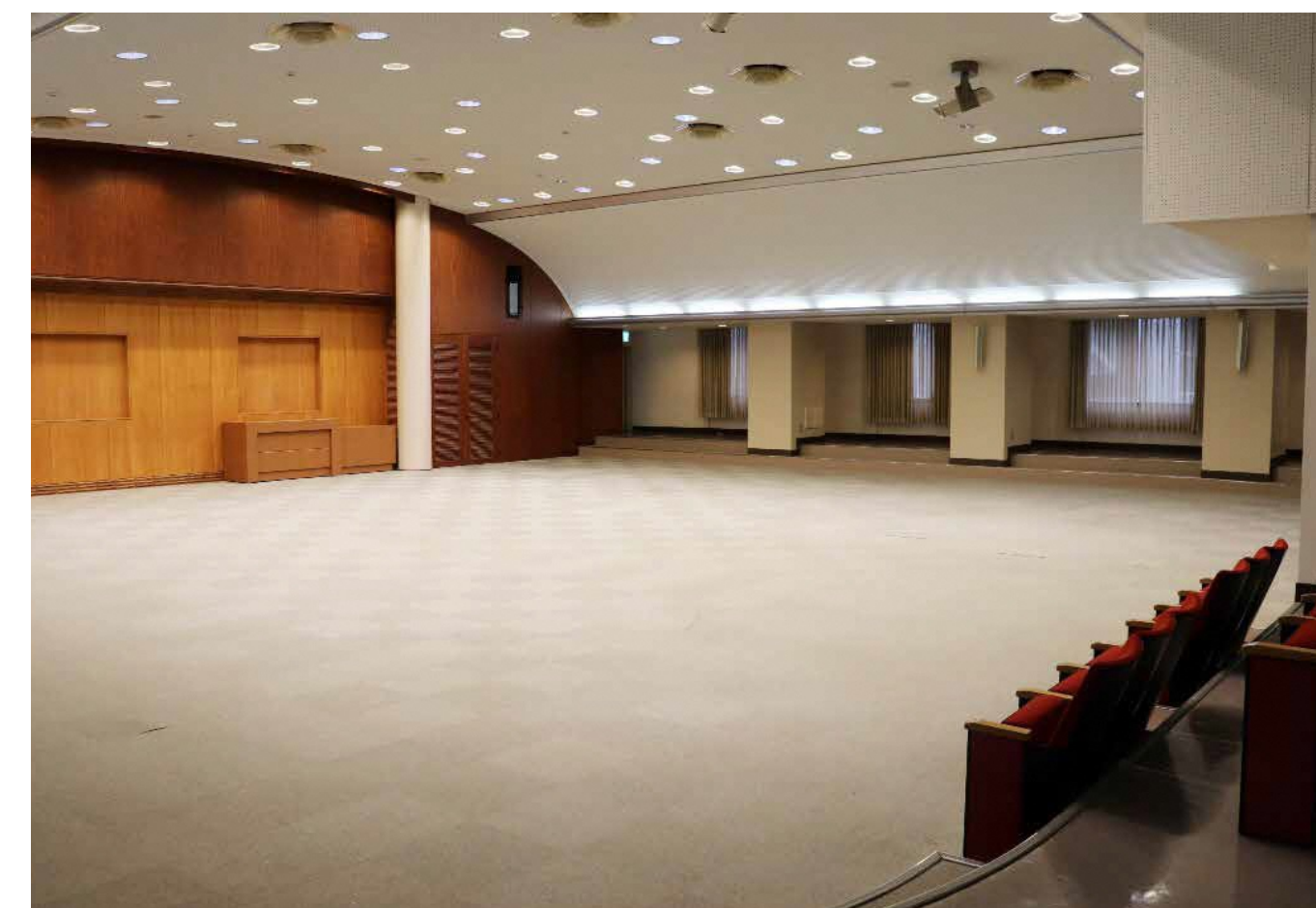
「現本館」庁舎の竣工より90年

「現本館」県庁が竣工してから、2025年で90年です。

幾度の困難を乗り越えて現在も使われている「現本館」は、創建当時の面影を残しつつも少しずつ変化してきました。

創建当時の様子を伝える『^{と やま けんちょうしや}富山縣廳舎新築工事概要』（高道家文書 富山県公文書館蔵）によると、議場（現在の県会議事堂）が庁舎内の中央部分に3・4階を一つの空間として吹き抜けで設置されていました。

〈4階大ホール〉



現在も県庁舎4階大ホールには、創建当時の議場の名残である傍聴席が残っています。

〈3階特別室〉



かつては貴賓室であった3階特別室には、当時の雰囲気が残っています。



現在は3階と4階部分は区切られており、3階には各課が設置されています。3階中央部の各課の天井は他の場所と比べて低くなっています。



地鎮祭記念品

昭和9年（1934）3月

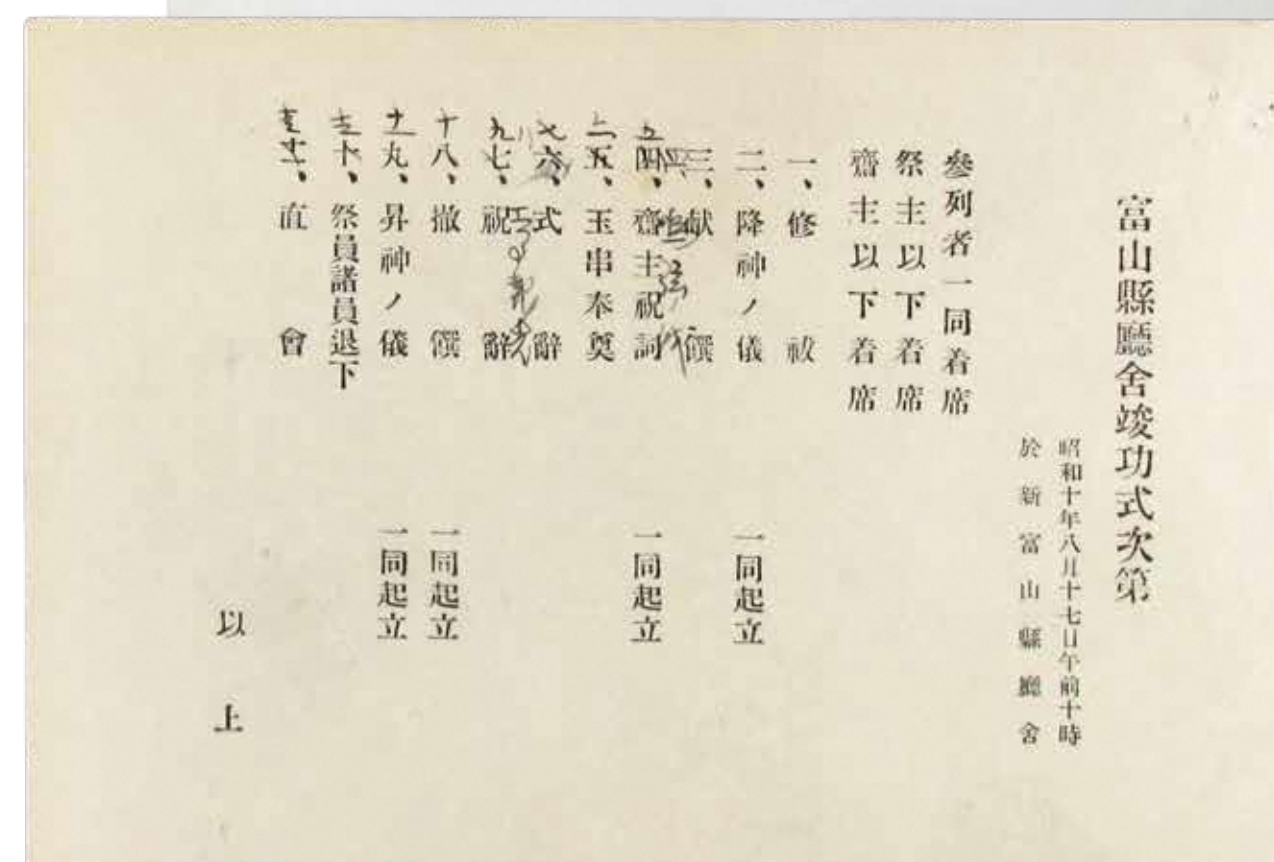
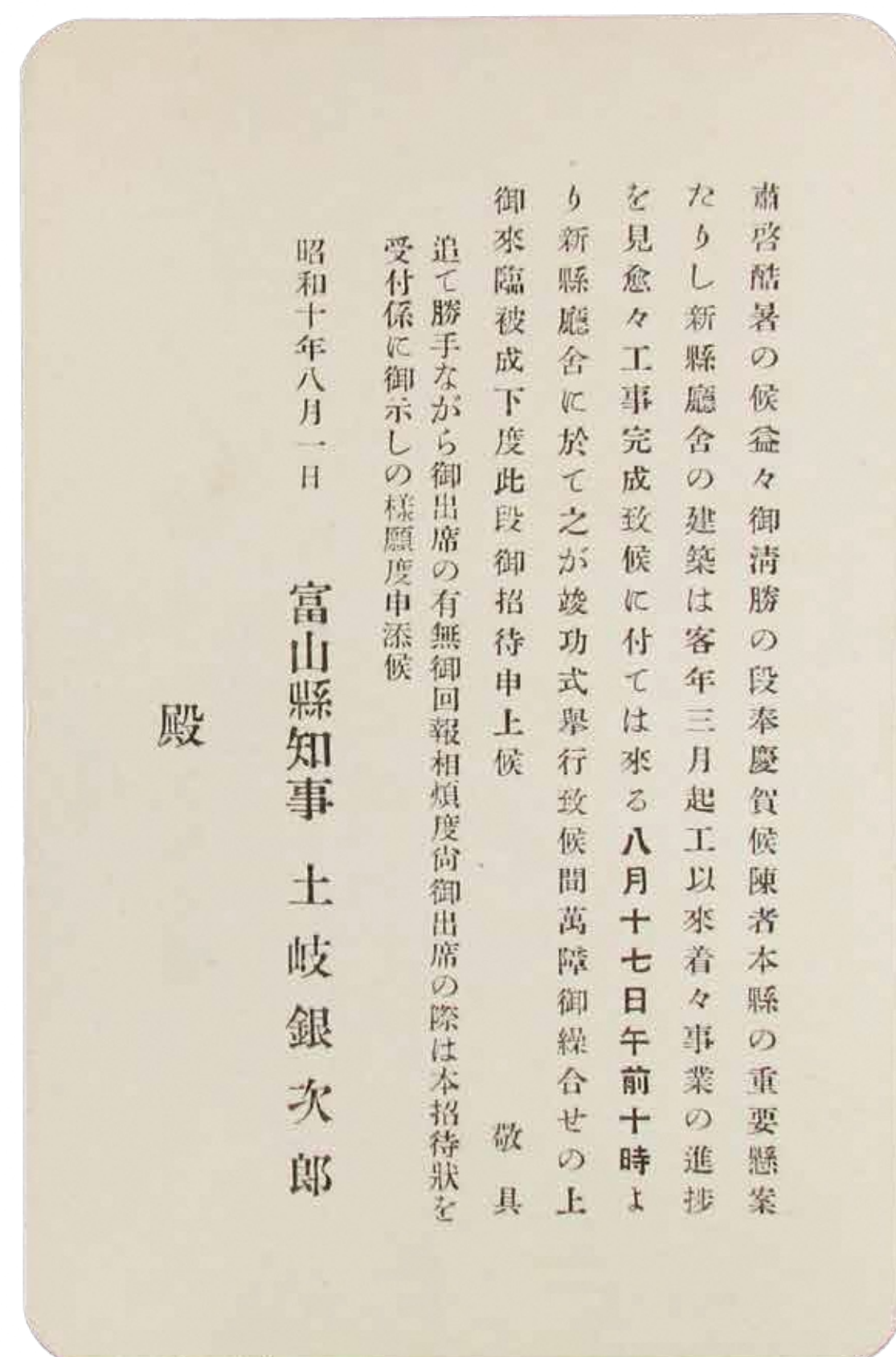
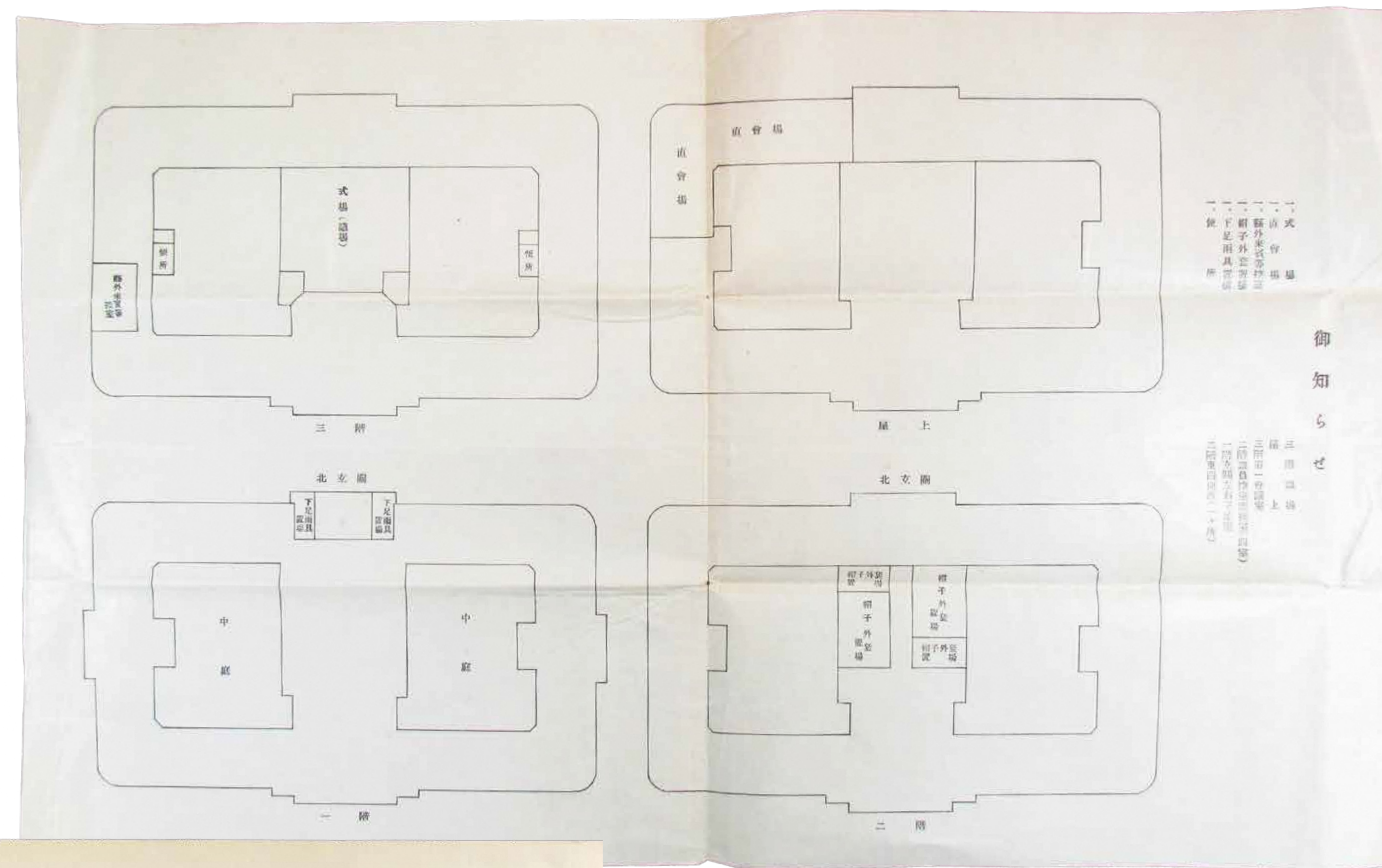
昭和5年に焼失した旧県庁に代わり、廃川地跡の新総曲輪に新しい県庁舎が建設されることとなった。昭和9年3月15日地鎮祭・起工式が実施されたが、その折に記念品として配付された文銭（2個セット）である。高岡にあった工業試験場で製作し、1,000組が招待者及び関係者に配付された。（富山県公文書館蔵）

県庁竣工式招待状

昭和10年（1935）8月1日

新県庁舎の竣工式を行うため、関係者に発送された招待状一式の案である。竣工式は、同年8月17日に挙行された。会場図と県発行の『富山縣廳舎新築工事概要』の平面図を照合してみると、式典を行う式場は議場、直会（なおらい）は見晴らしが良い屋上（屋階）で行われたことが分かる。招待者家族の観覧券も同封された。

（富山県公文書館蔵）



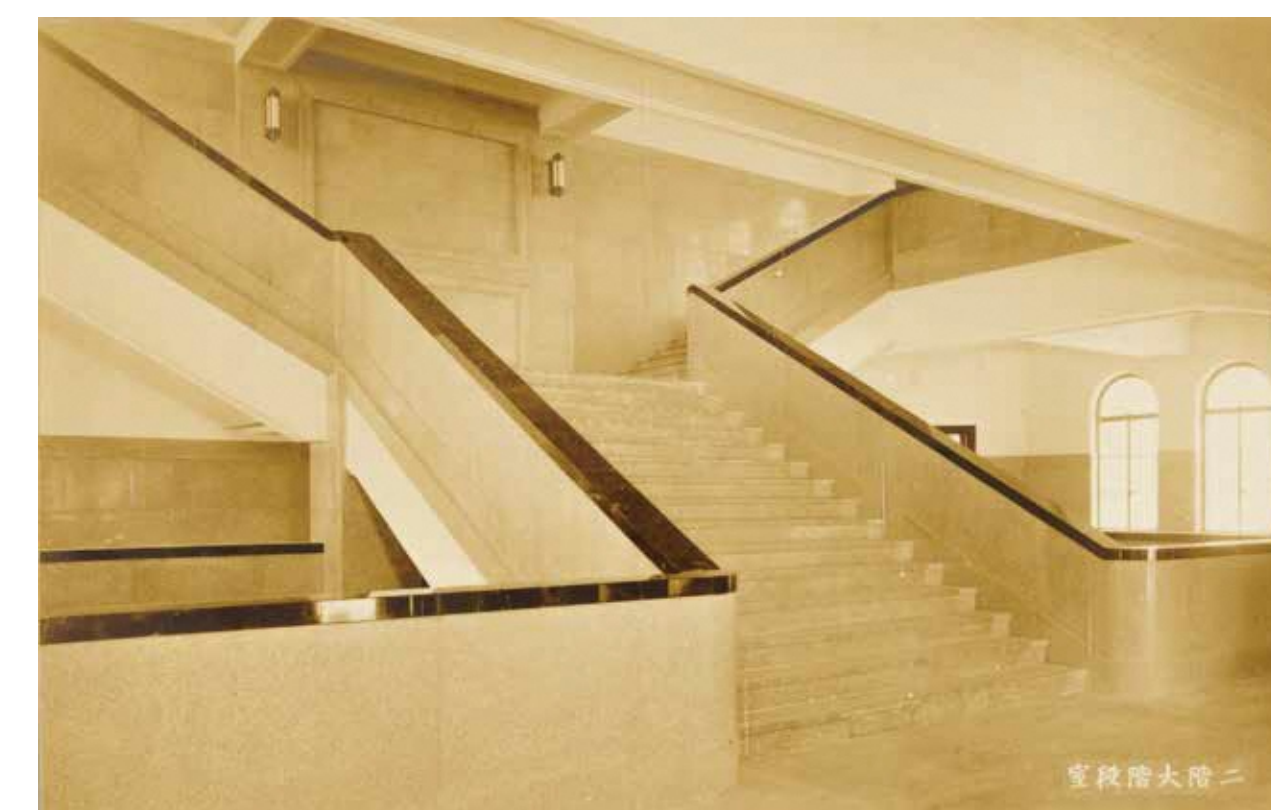
と やま けん ちょう しゃ
『富山縣廳舎新築落成記念 伸び行く富山縣』

昭和10年（1935）8月17日

富山県庁の竣工式に合わせて北陸タイムス社より発行された記念小冊子である。

新築された県庁舎の外観や富山県会議場、議長室など各部屋の写真と併せて、知事土岐銀次郎や富山県会議長高廣政之助、副議長の深井龍太郎など、当時の県政に携わる要人たちの写真も掲載している。後半部分には、富山新風景と題し、宮市大丸富山店をライトアップした夜景写真や富山電気ビルディングなど富山市内や県内各地の主要な会社や名所の写真を掲載している。

（高道家文書 富山県公文書館蔵）



と やま けん ちょう しゃ
富山縣廳舎竣工記念ポストカード

昭和10年（1935）8月17日

新県庁舎の竣工記念として県が作成したポストカード5枚である。

県庁の外観全景を写した「北側全景」、車寄せ部分から写した「北玄関」、議場入口を階段下より写した「二階大階段室」、4階から写した「議場」、4階にあった大広間を写した「正庁」の各写真をポストカードにしている。正庁は、現在大会議室として使用されている。

（高道家文書 富山県公文書館蔵）

と や ま け ん ち ょ う し ゃ
『富山縣廳舎新築工事概要』

昭和10年（1935）8月17日

県が発行した新県庁舎新築工事についての概要書である。

新県庁舎は堅牢さと実用性を重視し、東洋趣味を加味した鉄筋コンクリート造りの4階建てとなった。国会議事堂や山口県庁などの設計にも携わった大蔵省営繕管財局の大熊喜邦監修のもと設計された。金融恐慌に続く昭和恐慌のため当時の県の財政状況は厳しく、総工費117万円は昭和8年度から3か年の予算組みとなった。

中央部分にある議場は3・4階を一つの空間とし吹き抜けであったが、現在は区切られ3階部分は各課、4階部分は大ホールとなっている。

（高道家文書 富山県公文書館蔵）

